

- * イエスはどのようにして十字架で殺されたのか。直接的理由は、ユダヤ教の祭司長や指導者たちのイエスへの妬みと敵意であるが、本当の理由は、神が私を「罪」から救うために計画されていたことが実行されたということである。聖書の「罪」とは神から離れていること。具体的には、神の命令や律法に背くことである。その集約は「十戒」(出エジプト20章参照)にある。十戒は唯一真の神以外の造られたものを神としたり、拝んだりすることを禁じている。また、私たちの日常生活において自分の欲望を第一として生きることも禁じている。しかし、私たちは、このような罪の性質を誰でも生まれつき持っている。神の命令だといわれてもなかなか守れない。私たちは皆神と反対の方向、すなわち悪の方向に向かおうとする性質を持っている。
- * このどうしようもない罪に対して解決策が与えられた。それがイエス・キリストの十字架である。「キリストは罪を犯したことがなく、その口に何の偽りも見いだされませんでした。ののしられても、ののしり返さず、苦しめられても、おどすことをせず、正しきさばかれる方にお任せになりました。そして自分から十字架の上で、私たちの罪をその身に負われました。それは、私たちが罪を離れ、義のために生きるためです。キリストの打ち傷のゆえに、あなたかたは、いやされたのです。あなたかたは、羊のようにさまよっていましたが、今は、自分のたましいの牧者であり監督者である方のもとに帰ったのです。」(1ペテロ2:22~25) 主イエスが十字架にかかれたのは、まったく罪のない方が私たちの罪を肩代わりして、信じるものに赦しを与えるためであった。そして、罪を赦されたものは罪を離れて神が示される正しい道を歩くことができる。
- * 十字架は1本ではなく3本であった。イエスと共に二人の犯罪人が左右に十字架につけられていた。一人の方は、「十字架にかけられていた犯罪人のひとりにはイエスに悪口を言い、「あなたはキリストではないか。自分と私たちを救え」と言った。」(23:39) 群衆と同じように神の御子イエスをののしる。
「ところが、もうひとりのほうか答えて、彼をたしなめて言った。「おまえは神をも恐れないのか。おまえも同じ刑罰を受けているではないか。われわれは、自分のしたことの報いを受けているのだからあたりまえだ。だがこの方は、悪いことは何もしなかったのだ。そして言った。「イエスさま。あなたの御国の位にお着きになるときは、私を思い出してください。」(23:40) 自分の罪を謙虚に認め、隣のイエスが救い主であることははっきりと告白している。そして、心からイエスを信じてゆだねている姿が見える。彼は、十字架上のイエスのことばによって変えられたのだと思う。「イエスは、彼に言われた。『まことに、あなたに告げます。あなたはきょう、わたしとともにパラダイスにいます。』」(23:41) 私たちは誰でも、自分の罪を認めてイエス・キリストがその罪から救ってくださる救い主であることを告白すれば、人生のどんな時期からでもパラダイス(イエスが共にいてくださるところ)に入ることができる。

